

ステークホルダによる 合意形成方法の提案

Group J5

2009SE077 石田雄大

2009SE202 濁川 誠

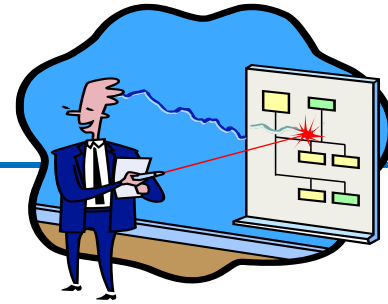
目次


- 今回の発表の動機
- 前回の発表
- ゴール評価方法
- 合意形成プロセスの提案
- 今後の方針
- 参考文献

今回の発表の動機

前回の発表

- 優先度付けプロセス(アンケート)の発表.
- 合意形成方法・プロセスについて提案.



- 
- ◆ インput・アウトputをしっかり表記する.
 - ◆ ステークホルダの優先度付けは研究内に入る/入らない.

今回の発表の動機

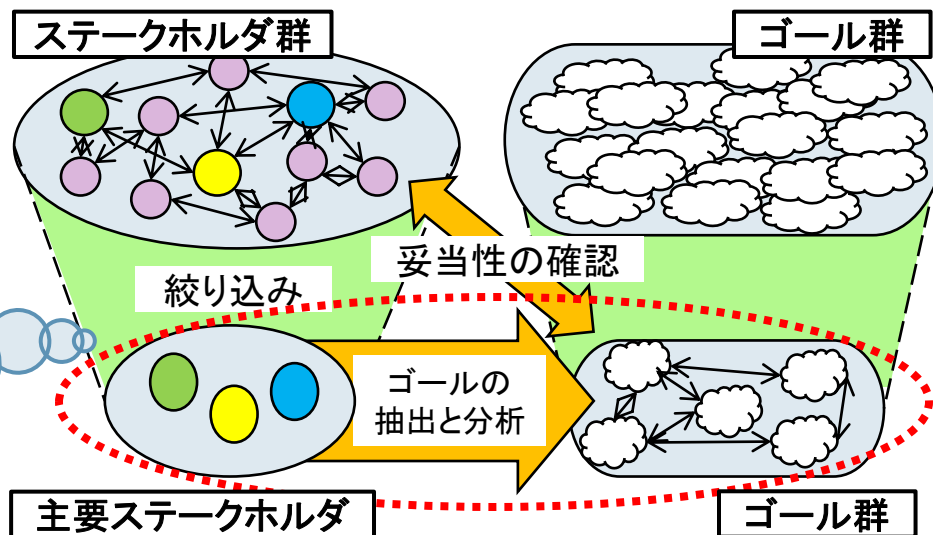
- 前回の解答
 - ステークホルダの優先度について.
 - ゴールを決定することについて.
- ゴール評価方法
 - SRモデルを用いたゴール評価について述べる.
- 合意形成プロセス
 - アンケート方法ではなくゴールの関係性に着目した評価方法の発表.
 - 各プロセスの紹介.
 - 手順や、評価付けをどのように行うのか述べるため.



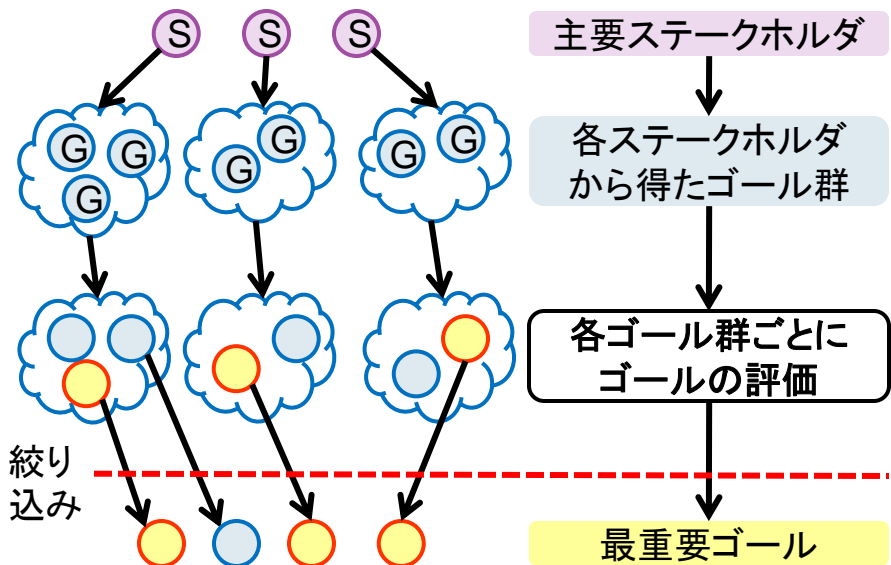
前回の解答

先輩の研究内容

- ステークホルダは絞り込まれているが、優先度は付加されていない。
- ステークホルダを絞り込むのは、優先度を付けたからではなく、マトリクスにより評価して絞り込む。



合意形成方法



インプット

- 絞り込まれたステークホルダ
 - 優先度は付加されていない

アウトプット

- 影響力の高いゴール
 - 関係性に着目し、影響度合いによって評価されている。



影響力の高いゴールが「最重要ゴール」となる。

ゴール評価方法

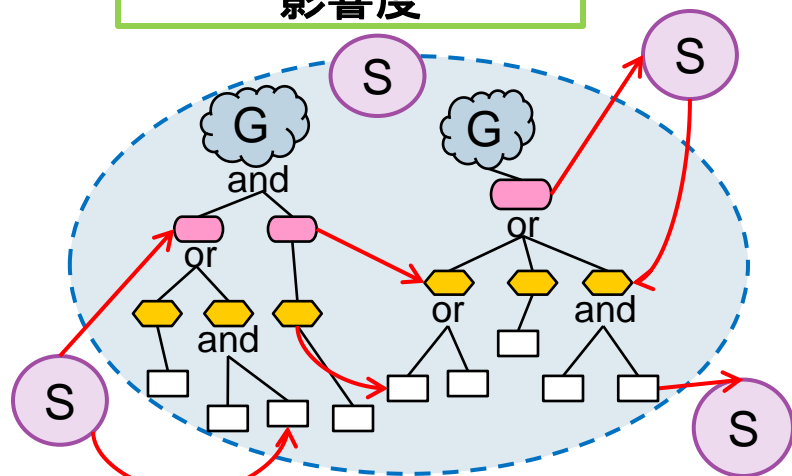
ゴール間の関係性

「ゴールとステークホルダの影響度」から評価する。



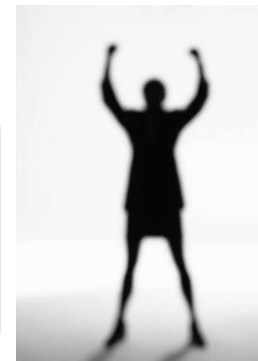
全てのゴール群を表現するのではなく、対象のステークホルダのゴール木と各ステークホルダにより依存関係を表現することで、ゴールの関係性が捉えやすくなる。

影響度



- ステークホルダがどのゴールと繋がりを持っているのか,ゴールがどのステークホルダとゴールと繋がっているのかが重要.
- ステークホルダやゴールに影響を与えているゴールに対して値を付加する.

影響を与えられる方が
重要ではなく,
影響を与える方が
重要なゴールとする.



SRモデルを用いて関係性を表現

- ゴールとゴール間の影響度合を表現.
- ステークホルダとゴール間の依存関係による影響度合いを表現.

合意形成プロセスの提案(1/4)

合意形成プロセス

対象のステークホルダの
ゴール木を生成

SRモデルでゴール群の
依存関係を表現

依存関係に
リスク・貢献を付加

リスク・貢献により
マトリクスを生成

影響度をリスク・貢献に
より分布図で表現

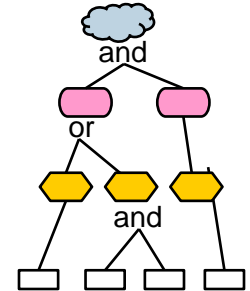
上位ゴールと下位ゴールの関係

•AND関係

上位ゴールを達成するためには、全ての下位ゴールを達成しなければならない。

•OR関係

下位ゴールのいずれかが達成されれば、上位ゴールが達成される。

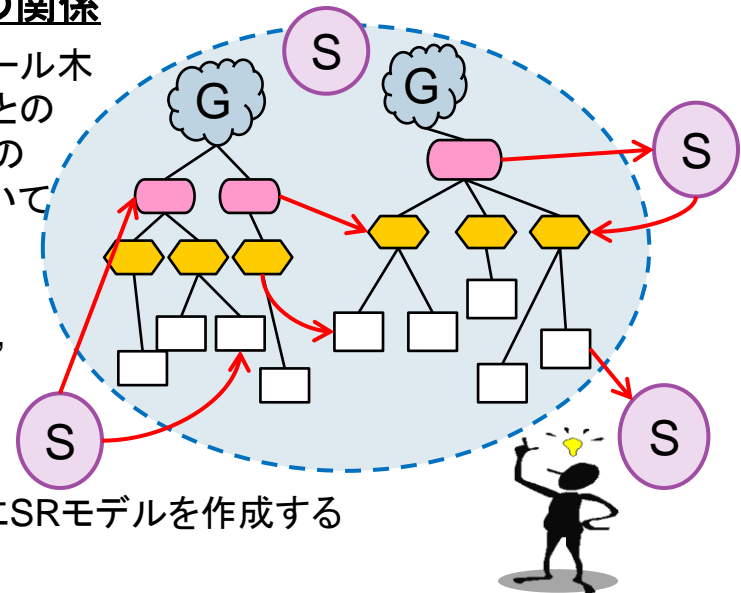


ゴールとステークホルダの関係

•対象のステークホルダのゴール木と他の主要ステークホルダとの依存関係や、ゴール木同士の依存関係をSRモデルを用いて明確化する。

•依存関係を表現する際には、どちらが影響を与えるのか、矢印の向きに注意する。

•対象のステークホルダごとにSRモデルを作成する



合意形成プロセスの提案(2/4)

合意形成プロセス







対象のステークホルダの
ゴール木を生成

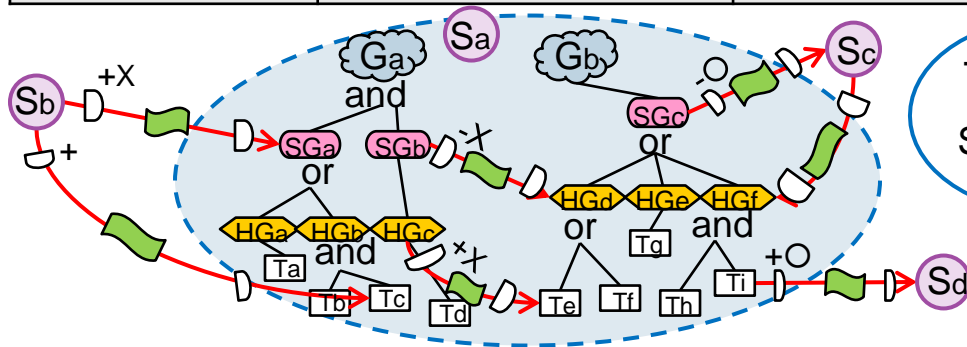
SRモデルでゴール群の
依存関係を表現

依存関係に
リスク・貢献を付加

リスク・貢献により
マトリクスを生成

影響度をリスク・貢献に
より分布図で表現

依存	表記	説明	値
貢献の クリティカル依存		致命的な影響となる 貢献的活動の依存	+3
貢献の コミット依存		重大な影響となる 貢献的活動の依存	+2
貢献の オープン依存		重大な影響とならない 貢献的活動の依存	+1
依存なし		依存関係なし	0
リスクの オープン依存		重大な影響とならない リスク的活動の依存	-1
リスクの コミット依存		重大な影響となる リスク的活動の依存	-2
リスクの クリティカル依存		致命的な影響となる リスク的活動の依存	-3



上の表記を
利用して
SRモデルを
作成！！



合意形成プロセスの提案(3/4)

合意形成プロセス

対象のステークホルダの
ゴール木を生成

SRモデルでゴール群の
依存関係を表現

依存関係に
リスク・貢献を付加

リスク・貢献により
マトリクスを生成

影響度をリスク・貢献に
より分布図で表現



ステークホルダaが持つゴールaの影響度表

S(a)	G(b)	S(b)	S(c)	S(d)	影響度	
					貢献	リスク
G(a)	0	0	0	0	0	0
SG(a)	0	0	0	0	0	0
SG(b)	-3	0	0	0	0	-3
HG(a)	0	0	0	0	0	0
HG(b)	0	0	0	0	0	0
HG(c)	+3	0	0	0	+3	0
T(a)	0	0	0	0	0	0
T(b)	0	0	0	0	0	0
T(c)	0	0	0	0	0	0
T(d)	0	0	0	0	0	0
合計					+3	-3



対象のゴールが影響を与える場合のみ値を記入する。

合意形成プロセスの提案(4/4)

合意形成プロセス

対象のステークホルダの
ゴール木を生成

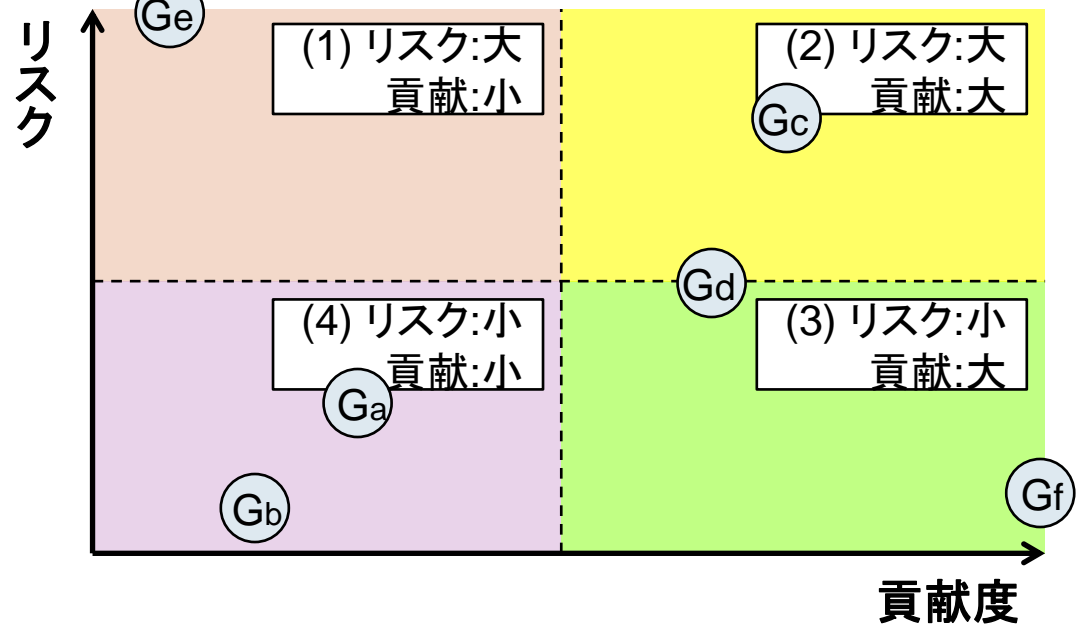
SRモデルでゴール群の
依存関係を表現

依存関係に
リスク・貢献を付加

リスク・貢献により
マトリクスを生成

影響度をリスク・貢献に
より分布図で表現

貢献/リスク分布図



- (1)～(4)の領域は、
貢献度/リスクの最大値から4分割して生成する。
- 影響度の大きいゴールは
上記の領域の(3)に該当するゴールである。

 **影響力の大きいゴール**が「最重要ゴール」となる。

今後の方針

題目

「ステークホルダによる合意形成方法の提案」

- 実例に適用し合意形成方法を提案する.
 - ステークホルダの絞り込みから行ってみる.
 - 不十分な部分や再度定義すべきプロセスがないか検証しながら行う.

参考文献

- 要求工学
著:大西 淳・郷 健太郎
- 要求工学知識体系 (REBOK)
- 2012年度卒業論文要旨集
「ステークホルダを中心とするゴール分析方法の提案」
- ソフトウェア要求工学「4.要求獲得(3)」講義資料
- ゴール指向によるビジネス活動の要求定義
著:山本 修一郎